

フクシマ連隊キャラバン参加報告書

東北地方小名浜支部青年部

書記長 齋藤直道

今回2回目となる、フクシマ連帯キャラバンに参加してきました。私は茨城行動からの参加になりました。

茨城行動の要請では、各自治体の考えや思いを聞き、福島県の隣県なのになぜ福島原発事故を教訓にしないで再稼働反対の意思を各自治体表明しないのかととても憤りを感じました。また、広域避難計画の話で避難計画を策定した自治体の話を聞くと考えが甘いなと思いました。第一次避難計画場所は決めている自治体がありましたが、風向き次第では第一次避難場所も影響を受けるのでそこまで考えて避難計画を立てて欲しいと思いました。避難計画に対して、実効性ある避難計画は絶対にないと改めて感じました。

また、要請を行い私たちがすぐできることは

一つ目は、選挙活動です。各自治体のトップを決めるのも住民であるからこそ選挙に行き自分が推す人を選ばなきゃならないと思い、支部に戻って選挙の大事さを伝えなければならぬと思いました。

二つ目は、風化させないことです。福島原発事故の被害、問題を少しでも国民に伝えれば、原発はいらないという意見が少しでも多くなると思うので若い世代が発信して

いくためにもフクシマ連帯キャラバンは毎年行わなければならないと思います。

今回参加してフクシマ連帯キャラバンは福島の問題だけではなく全国の問題です。国

民ひとりひとりが取り組まなければならない行動だと思います。フクシマ連帯キャラ

バンに参加すれば、行動中に仲間ができ、その人の支部、近くに原発があるから心配

にもなるし、取り組めば少しは脱原発に向けて未来があると思います。キャラバンの

最後には達成感もあり涙を流す人もいます。組織として、みんなで創りあげ成功し、

仲間が増えたことが1番これから若い世代に大事なことだと思いました。

最後になりますが、自分自身とても成長できたフクシマ連帯キャラバンでした。